

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名 : 交通サービス評価(1)	
日時場所 : 11月03日(月) / 09:00~10:30 / 第10会場	
司会者 : 三谷哲雄(流通科学大学)	
討 議 内 容	セッション全体 : 全体を通じた討議はありませんでした。
	(297) 安藤良輔(財団法人豊田都市交通研究所): 『中国の地方都市における交通実態と課題について』 本論文では、中国地方都市の代表格である「煙台市」を対象とした現地調査に基づき、中国の地方都市の交通実態や都市交通の課題、現在進められている取組みなどが示された。 本発表に対して以下の討議があった。 具体的な交通安全対策は? ==> 非常に弱いものである。ただし、安全教育(特に五進入対策: 職場, 自宅, 農村, ...からの都市部への流入交通に対するもの)は充実している。特に農村からの流入交通に対する教育の充実の背景には、対象地区がもともと農村を中心とした地区であり、農村住民への教育実績がほとんど無く、そのことが交通事故発生の大きな要因の一つと考えられている点がうかがえる。 罰則金はあるのか? ==> 日本以上に厳しい罰則金があり、一つの抑止力となっている。 自動車利用に関する制限はあるのか? ==> 流入規制など先進的な取組みはあるものの都心部への集中側の対策だけである。今後は、所有(日本での車庫証明)や購入の規制も考えられている。 「軌道系交通システムがない」ことが都市としての課題に思うが、整備の進まない理由はあるのか? ==> 政府の縛りがきついためである。高速整備を中心に発展(国の計画)し、軌道系も政府中心に進みつつある。しかし他都市との秩序ある発展のため、国としての優先順位があるようである。 など。
	(298) 澤井勝太(広島商船高等専門学校): 『島民意識に着目したQOLの向上を目指したモビリティのあり方に関する一考察』 本研究は、これまでほとんど研究の見られない過疎化・高齢化の進む「島」を対象とした研究のひとつである。本論文では、「大崎上島」を対象とした住民アンケート調査に基づく意識構造分析から、QOL向上を目指したモビリティのあり方について検討した結果が示された。 本発表に対して以下の討議があった。 年齢階層が意識構造に影響するのでは? ==> 影響があることは認識している。今後の課題としたい。 交通手段を所有している住民にとっては問題とはいえず、それよりも路線バスやコミュニティバスの主な利用者となる交通手段未所有の住民での分析を進められてはどうか?(コメント) 間接効果をどのように解釈すればよいのか?(施設数なのか施設へのアクセスの質なのか) ==> 施設数を改善(増加)することはきわめて困難であると考えている。このため、施設へのアクセスの質に対する効果と考えている。

対象地区における「アクセスの質」改善に対する方策として考えられるものは？ ==> コミュニティバスで何とかしたい。

島外地域との比較で対象地区の特徴（顕著な課題やニーズなど）は捉えられているか？ ==> 現時点では把握できていない。都市部に近い「島」とは違うことが推測される。今後の課題としたい。
など。

(299) 二神透（愛媛大学総合情報メディアセンター）:

『救急処理表と GPS・動画データ分析による救急車両の走行動態に関する基礎的研究』

本研究は、高速道路での事故における救急処理を対象として、事故発生から救急病院搬送までの一連の処理において、不確定でばらつく一連の搬送時間を確実に把握することを目的としている。本論文では、救急車両の走行中の GPS データや動画データを用いた走行動態の基礎的な分析が試みられている。

本発表に対して以下の討議があった。

連絡時間は一般的な値なのか？ ==> これまで取得されたことの無いデータであるため一般性は不明である。しかし、伝達経路の違いで高速道路わきの非常電話が早い場合が多いと考えられる。

現在の経路選択方法は？ ==> ヒアリングによれば、経路はほぼ決まっている。これまでの経験と搬送経路上の状態に合わせて臨機応変に対応されている。また、専用の誘導システムはない。

将来的な誘導システム導入に向けた要点は？ ==> 一般車両とは走行動態がまったく異なるため、経験による意思決定が重要だと考える。

駆け付け速度に比べ搬送速度が速い傾向は一般的なのか？ ==> 詳細な分析はまだであるため詳細は不明なものの、偶然の可能性が高い。

収集したデータをどう使う（活用していく）のか？ ==> 現時点ではまだ、情報を収集し、その基礎分析の段階である。今後検討したい。
など。